

I 2017 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017 年度大学評価結果総評】

法政大学の学生としての総合的な知識の修得とともに、文化と科学としてのスポーツの理解を図り、これからのスポーツ文化の担い手を育てるといふ、SSI の目的は達成できるといえよう。

自己点検・評価においては、SSI が現状の課題を的確に把握し評価を行い、資源や制度という制約条件の中で、具体的な改善・対策を計画し、着実に課題に対応できているという点は、高く評価できる。

こうした中、とりわけ、SSI の学生の実態や課題を踏まえた、科目の改編および充実をはじめ、授業支援システムの積極的活用、使い方解説、SSI 学生の所属学部でのガイダンス実施、そしてガイダンス出席率向上の方策は、他学部も参考にできる内容であろう。

一方、課題としては、科目改編等に伴って新たに発生する可能性のある課題の把握・評価の検証も必要であろう。そのため、学期ごとに把握できる「授業改善アンケート」の活用が望まれる。さらに、全学的課題としては、SSI 専任教員だけでなく、SSI 学生の所属学部は、各学部の初年次教育や専門科目と、SSI 科目と関連させた履修の支援の充実があげられよう。

今後さらに、授業支援システムや科目の改編などの教育方法・システムの構築を通して、SSI の学生に対して充実した教育を提供しつつ、同時に所属学部と SSI の兼任により多忙となる SSI 専任教員の負担を軽減できることを期待する。

【2017 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】(～400 字程度まで)

授業改善アンケートや SSI 卒業予定者向けアンケートの集計結果や活用方法について、運営委員会の議題として取り上げ、継続的に審議している。

SSI 生が、各学部で開講している科目と SSI 科目との関係性を明確に理解できるよう、カリキュラムマップ・ツリーを更新している。

また、運営委員会において、各学部での SSI 生に向けたオリエンテーション・ガイダンスの充実を促す等、SSI 生の履修に関する支援について、SSI 学生の所属学部から選出されている運営委員と課題を共有し、対策を検討している。

【2017 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (以降、SSI) は、2018 年度より質保証委員会を設置しており、内部質保証体制の整備を着実に図っている点は評価できる。

教育方法の適切性の確認と改善に向け、「学生による授業改善アンケート」「SSI 卒業予定者向けアンケート」の集計結果と活用方法を SSI 運営委員会で検討を継続しているところまでは確認できた。今後の具体的な活用に期待したい。

SSI 生に向けた各学部のオリエンテーション・ガイダンスの充実の促進と、SSI 生の履修支援について学部から選出されている委員と課題の共有と対策の検討を行っている。スポーツ健康学部や各学部との連携については引き続き課題となっている。

SSI のカリキュラムマップ、カリキュラムツリーでは、SSI 科目の体系が提示され、そこに「各学部主催科目」の 1 行が加わった。SSI 生の観点に立つと、SSI 科目と学部主催科目との関係性の理解を助ける工夫が望まれる。

II 自己点検・評価

1 内部質保証

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム (質保証委員会等) を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会 (質保証委員会等) は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】 ※簡条書きで記入。

・2017 年度まで、SSI には質保証委員会が設置されておらず、運営委員会がその役割を担っていたが、より客観性を持った質保証の在り方を検討するよう、大学評価委員会からの指摘を受けた。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
大学評価委員会からの指摘を受け、2018 年度第 1 回運営委員会において、質保証委員会の設置	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

を決定した。2018年度は、2名のSSI運営委員を質保証委員として選出した。質保証委員は、自己点検・評価シートの点検やシラバスチェック等の作業を担当する予定である。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI運営委員会全教員によって質保証を実施してきた従来の方法を改め、2018年度4月からは質保証委員会を設置し、内部質保証体制を整備した点は評価できる。

2 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

限られた総コマ数の中で、SSI生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、SSIカリキュラムポリシーに基づいて、2015年度にカリキュラム改定を行った。また、2016年度第4回運営委員会・2017年度第1回運営委員会において、各委員に対して、所属学部が学部主催科目をSSI専門科目として公開してもらえるよう依頼した。

【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

学部主催科目をSSI専門科目として公開してもらうことについては、運営委員会において、具体的な成果は報告されていない。今後は、各学部が主催する科目のうち、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目をSSI専門科目として提供してもらえるよう、学部長会議に上程する予定である。

2017年度より、8つの競技に限定して開講されていた「スポーツ実習(競技名)」から競技名を削除して授業名を「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」とし、全ての競技に取り組むSSI生が履修できるように改定した。「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の具体的な内容は、運営委員会での議論を経て決定し、2018年度より開講されている(履修できる学年が2年次以上であるため、2018年度が開講初年度となっている)。

「スポーツ実習(競技名)」を開講することによって生じた総コマ数のゆとりができたものの、過去の資料を確認したところ、「スポーツ実習(競技名)」を開講する目的に限定して開講科目コマ増(恒久)の申請を行ったことが判明した。そこで当初の目的に鑑み、2017年度第4回運営委員会において、余剰コマは解消すること、今後カリキュラムの拡充を目指す際は、新たに増コマ申請を行うことが確認されている。2018年度中に、開講科目コマ増(恒久)の解消について、学部長会議に上程する予定である。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)
- ・2016年度第4回SSI運営委員会議事録
- ・2017年度第1回SSI運営委員会議事録
- ・2017年度第4回SSI運営委員会議事録

②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

SSIの学生は、各学部所属しているため、各学部で行われている初年次教育に参加している。SSIにおいては、SSI基礎科目として開講されている7つの必修科目や、「スポーツ学入門」等が、初年次教育の役割を果たしている。また、2018年度より開講された科目「オリンピック・パラリンピックを考える」については、3付属高の生徒に公開されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 SSI生は、各学部にも所属しているため、各学部で行われているキャリア教育を受けている。SSIにおけるキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」が挙げられる。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI履修要綱・講義概要（シラバス）</p>	
2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・大学入学前の3月末に、SSI新入生全員を招集し、SSIガイダンスを行っている（2018年度入学生に対しては、2017年3月27日に実施）。 ・年度当初に行われる学部ガイダンス・学科ガイダンスでは、ガイダンス終了後等に別途時間を設けて、SSI生を対象にSSIに関するガイダンスを行っている学部・学科もある。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 SSIガイダンスに出席するよう、体育会各部の部長・監督に対して要請を行ったところ、欠席者は一定数いたものの、全ての部の学生（128名）が出席していた。 2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部のSSI生に対してオリエンテーションやガイダンスを行うように依頼した。その後も、本件について継続的に運営委員会の議題として取り上げ、各学部との持続可能な協力体制を探索している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・新入生のSSIガイダンスへの参加について（お願い） ・SSIガイダンスの開催について（ご案内） ・2016年度第4回SSI運営委員会議事録</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 新年度開始直前の3月末に行っているSSIガイダンスにおいて、複数の教員（直近の3回は委員長・副委員長）が出席し、履修の際の助言を行ったり、授業への出席を強く促したりする等、修学上の注意事項を説明している。 SSIの学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう、SSIガイダンス、各学部・学科のオリエンテーション・ガイダンスにおいて指導している。 授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定等を行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目（スポーツ心理学）において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。 今後は、運営委員会やFDミーティングにおいて、SSI生の特徴（学習と競技を両立させている）を踏まえた学習方法の検討を行いたいと考えている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 授業支援システム（たとえば、2016年度より本学で導入されたOATube）等を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」等のアクティブラーニングを採用している。FD ミーティングにおいて、アクティブラーニングを積極的に導入している教員によるレクチャーを実施した。 授業支援システム等を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 2017 年度第 4 回運営委員会議事録 各授業の授業支援システムのホームページ 	
⑤それぞれの授業形態(講義、実習等)に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。 未だ大きな問題は生じていないものの、2016 年度の SSI 科目担当者懇談会において、受講者数が教室の定員を超える授業があったと報告された。SSI は、学生数に鑑みると、開講できる総コマ数が比較的少ないため、このような問題が生じやすい。そこで、SSI の学生が履修できる授業を増やすべく、2016 年度第 4 回運営委員会・2017 年度第 1 回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえるよう依頼している。また、必修科目・大規模授業において、SA を配置することも検討している (2018 年度第 1 回運営委員会)。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 	
⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入 (取組例：執行部 (〇〇委員会) による全シラバスチェック等)。 <ul style="list-style-type: none"> 全ての SSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> SSI 科目シラバス原稿作成の手引き 法政大学シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド (全学部・大学院共通) SSI シラバスに関する疑義・指摘 	
⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入 (取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。 <ul style="list-style-type: none"> SSI 主催科目担当教員による FD ミーティングを開催している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 2017 年度第 2 回運営委員会議事録 2017 年度第 4 回運営委員会議事録 	
2.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 2018 年度第 1 回運営委員会議事録 GPCA 平均集計表 (全学と SSI) 	
2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※簡条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 2018 年度第 1 回運営委員会議事録 GPCA 平均集計表 (全学と SSI) 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>競技に専門的に取り組んでいる SSI 生の特徴を踏まえた学習方法の検討を行い、2018 年度より開講される「スポーツ実習 I・II」の単位認定方法や受講生が提出する申請書・報告書に反映させた。</p>	
<p>【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2017 年度の運営委員会において、「スポーツ実習 I・II」の単位認定方法や受講生が提出する申請書・報告書について、各学部の実習系科目を参照しつつ、継続して議論を繰り返して決定した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度第 2 回運営委員会議事録 ・2017 年度第 3 回運営委員会議事録 ・2017 年度第 4 回運営委員会議事録 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>卒業を間近に控えた 4 年生を対象に、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2017 年度は、対象者 217 名中 192 名のデータを回収している (回収率 88.5%)。このアンケート内で、SSI 主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 ・SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果 	
<p>2.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>SSI 主催科目担当教員を招集し、FD ミーティングを開催している。カリキュラム編成や授業実施方法に関する意見交換を行っている。今後は、運営委員会や FD ミーティングにおいて、学習状況が好ましい学生の事例 (良好事例) を集積したいと考えている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度第 4 回 SSI 運営委員会議事録 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執行部が全科目のシラバスチェックを行い、シラバスの「学生の意見 (授業改善アンケート等) からの気づき」の欄を記入するよう、各教員に促している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業のシラバス 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (2.1)

スポーツを科学的・文化的に捉え、高度なスポーツ文化を担う人材の育成を目指して、所属学部の専門分野との知識の融合を図りながら、市ヶ谷・多摩両キャンパスにおいて、最新のスポーツ科学に関する幅広い科目の開講を着実に進めて

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

きたことは、評価できる。2015年度にはカリキュラムポリシーに基づいたカリキュラム改革を行い、限られた開講コマの制約の中で、SSI 主催科目の見直しと科目整理・集約化も同時に進めている。全ての競技種目の SSI 学生が履修できるよう、「スポーツ実習（競技名）」を閉講し「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」を開講するという取り組みも評価できる。各学部主催科目のうち SSI のカリキュラムポリシーに沿う科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう、各学部に所属の委員や学部長会議を通じて各学部への働きかけを始めているが、具体的な成果はこれからのようである。こうした改善によって、新たな教育効果が生まれることを期待する。

初年次教育として、所属学部の初年次教育に参加可能である。加えて、SSI 基礎科目（必修）として7科目、SSI 科目「スポーツ学入門」が開講されており、対応できていると言える。また、SSI 科目「オリンピックとパラリンピックを考える」は3付属高の生徒に公開され、内容も取組み易いテーマが選ばれており、高大接続への配慮は適切にされている。

SSI では、学生のスポーツ能力の向上に加えて、アスリートとして将来の幅広いキャリアプランニングが可能となるよう SSI 独自のキャリア教育科目が幅広く開講されており、高く評価できる。加えて、所属学部のキャリア教育の受講も可能であり、幅広い視野の形成が図られている点も評価できる。

②教育方法に関すること（2.2）

SSI 新入生全員を対象に、入学時の SSI ガイダンスを実施し履修指導を行っている。また、2年生以降は、幾つかの所属学部では、年度始めのガイダンス終了後に SSI 生向けのガイダンスを行っており、履修指導は適切に行われている。出席しない学生が所属する体育会各部の部長・監督に個別要請しており、少なくとも全ての部の SSI 生が出席したなど一定の成果があった。また、運営委員会委員に対し、所属学部の SSI 生に対するオリエンテーションやガイダンスを行うよう働きかけも行っているが、学部との持続可能な協体制の構築は引き続き課題である。

学習指導については、新年度開始直前の SSI ガイダンスにおいて、「競技と学習の両立」という SSI 生としての基本姿勢を強調すると共に、修学上の注意事項の説明を複数の教員によって行っており、適切である。

授業と公式戦開催日が重なる等、SSI 生特有の事情による欠席が発生することがある。その場合、本学の公式書類「競技参加による欠席願」を提出するよう指導がなされている。学習時間の確保のために、授業支援システムを活用した教材配布や課題提示、Web 掲示板の活用等、遠征先の学習機会の確保や予復習、授業予定の確認のために適切な配慮がされており、高く評価できる。

教育効果を高めるために、「ワールドカフェ」「クロスロード」等のアクティブラーニング手法を積極的に幾つかの授業に取り入れている点、授業における具体的な実践例を FD ミーティングで SSI 担当教員で共有を図っている点は、高く評価できる。

1 授業あたりの学生数は、現状では教室定員を超過している授業もある。履修可能な授業を増やすべく、各委員に対して、所属学部の主催科目を SSI 生に公開してもらえよう働きかけを行っているが、継続的な課題となっている。

シラバス作成の検証と個別の指摘が、全ての SSI 科目について執行部により実施されている点は評価できる。少数の SSI 科目において、「授業計画」の第1回から14回をまとめて1行で記載しているもの、授業回ごとのテーマや内容が繰返しとなっているものがあり、この点は改善が望まれる。

授業がシラバスに沿って行われている事の検証は、SSI 主催科目担当教員による FD ミーティングで行われているが、相互授業参観の実施や学生からの学期毎の授業改善アンケートを活用する事も可能であると思われる。今後の活用に期待したい。

③学習成果・教育改善に関すること（2.3～2.5）

成績評価と単位認定の適切性については、SSI 運営委員会および FD ミーティングにおいて成績評価方法に関する意見交換が行われており、また成績分布の状況については、SSI 運営委員会において GPCA 集計表が配布・共有されており、評価できる。

競技に専門的に取り組む SSI 生の特徴を踏まえた、学習成果の測定指標を検討し、2018年度開講の新科目「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の成果物評価や単位認定方法に反映させており、評価できる。

学生の学習成果の把握・評価については、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を利用し、運営委員会で共有されており評価できる。一方で、「学生による授業改善アンケート結果」が組織的に利用されているとは言えないようである。今後の課題であろう。

教育課程とその内容・方法の適切性について、SSI 主催科目担当教員による FD ミーティングでカリキュラム編成や授業方法の意見交換が行われており、評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

3 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。	
<p>【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程に則って、運営委員会を構成し、委員長・副委員長からなる執行部を構成している。また2018年度より、SSI 運営委員会内に質保証委員会を設置している。 なお、法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程については、現状・実態にそぐわない点があるため、改正に向けた検討を2018年度より開始している。 <p>【明示方法】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の構成については、「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程」に明示している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程 2018年度第1回運営委員会議事録 	
3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	
①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>SSI は学部横断的な仕組みである。そして、各学部より選出された、各学部のカリキュラムに精通した運営委員で構成される運営委員会によって、運営されている。執行部は、定例の執行部会議を開催するだけでなく、必要に応じて臨時の執行部会議を開催し、運営委員会を主導している。</p> <p>SSI カリキュラムポリシーでは、多様な学部にも所属する教員が協同することにより、学部相互の特色を併せもった教育課程を編成することを標榜している。しかし、全学における体育専任教員29.5名（2018年度のデータによる）のうち、SSI 科目を担当している教員は、わずか11名にとどまっている。体育専任教員のSSI 科目担当を促すことは、各学部と共有して改善すべき課題といえる。そのためには、学内の関連部局であるスポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携を強化する必要があると考えられる。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程 SSI カリキュラムポリシー 	
3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）等内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全てのSSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。 <p>【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教員は、各学部において行われているFD活動に参加し、必要に応じて運営委員会やFDミーティングにおいてフィードバックを行っている。 2017年度は、第3回・第4回運営委員会の終了後に、FDミーティングを行い、授業に関する問題点や課題について意見交換を行った。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI 科目シラバス原稿作成の手引き 法政大学シラバスWEB入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通） SSI シラバスに関する疑義・指摘 2017年度第3回運営委員会議事録 2017年度第4回運営委員会議事録 	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI 運営委員会規程が設定されており、委員長・副委員長からなる執行部が設置され、役割分担、責任の所在は明確にされているといえる。

SSI のカリキュラムポリシーでは、多様な学部にも所属する教員の協働により、学部相互の特色を併せ持った教育課程の構築が謳われ、教員組織の編制方針に生かされており適切である。一方で、本学の体育分野専任教員の中で SSI 科目を担当する教員割合は4割弱にとどまっており、当該分野教員による SSI 科目の担当促進が課題として認識されている。各学部に加え、スポーツ健康学部、スポーツ研究センターとの連携強化が引き続き課題となっている。

FD 活動については、所属学部の FD 活動の共有をはじめ、FD ミーティングを開催し、授業の問題点や意見交換、アクティブラーニング導入事例の勉強会等を実施しており、授業改善のための積極的な活動は評価できる。

4 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきことであり、SSI としては組織的な体制を整備していない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。 S B

(～400 字程度まで) ※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。

SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきことであり、SSI としては組織的に対応していない。SSI としては、各学部・学科と連携して、学生の生活相談に対応すべきであると考えている。そこで、SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容や学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法の検討を行っている。

また、運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの現状についても情報を収集している。今後は、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに、先進的に取り組んでいる学部・学科の事例を集積したい。

さらに、学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局（保健体育センター等）と連携して検討を開始している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2018 年度第 1 回運営委員会議事録

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 S B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。

SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきことであり、SSI としては組織的に対応していない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。 S B

(～400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきことであり、SSI としては組織的に対応していない。なお、SSI に外国人留学生が在籍することはほとんどない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。

SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきことであり、SSI としては組織的に対応していない。各学部・学科との連携については、上記 4.1②に述べたとおりである。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2018 年度第 1 回運営委員会議事録

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI 生の卒業・卒業保留・留年者・休退学者の現況、および成績不振者の現況について SSI として組織的な把握をしていない。これらはいずれも SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきである、とのことであるが、一方で、競技に取り組む SSI 生固有の課題が存在する可能性もある。現況把握は改善のベースであり、学部へ情報提供を依頼する等、着手可能な事柄から始めることが期待される。

SSI 生の修学支援、生活相談についても、SSI に乗り入れている学部・学科が行うべきである、とのことであるが、同時に、各学部の学部生対象アンケート結果、SSI 生対象の新入生オリエンテーションや在校生向けのガイダンス等の各学部における先進的な事例の蓄積等、改善を始める意向も示されており、今後の成果に期待したい。

5 社会連携・社会貢献

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。

S A B

(~400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

関連部局 (HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会 社会人学び直し検討チーム等) と連携することで、履修証明プログラムへの参画を検討している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会 社会人学び直し検討チーム 履修証明プログラムの検討状況について

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

・特になし	
-------	--

【この基準の大学評価】

「HOSEI2030 キャンパス再構築特設部会社会人学び直し検討チーム」と連携した、履修証明プログラムへの参画を検討しており、評価される。

また、SSI 生に期待される活躍の場として「地域における体育・スポーツ指導員」が挙げられており、SSI で取得可能な資格には、スポーツ指導基礎資格、競技別指導者資格、メディカルコンディショニング資格等、地域社会に根差すものが多くあることから、視野を広げれば潜在的な社会貢献活動や学外組織との連携協力による教育研究活動の事例を見出すことは可能と思われる。

6 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①所要の職を置き、また運営委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
--	--

(～200字程度まで) ※概要を記入。

「法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程」にしたがって、委員長をはじめとする各委員が設置され、インスティテュートが適切に運営されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

SSI 運営委員会が設置され、委員長、運営委員、および質保証委員会を始めとする委員会が置かれるとともに、「スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程」が定められており、規程に則った運営がされている。

III 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	SSI 質保証委員会を設置し、開催する。
	達成指標	SSI 質保証委員会を設置し、開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、各学部に働きかける。
	達成指標	各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、依頼文書を作成し、学部長会議に上程する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

3	中期目標	学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	学生アスリートに即した学習方法を検討する。
	達成指標	2号委員（SSI科目を担当する教員）を招集してFDミーティング等を開催し、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	1. 学習状況が好ましい学生アスリートの事例を集積する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。
	達成指標	1. FDミーティング等において、学習状況が好ましい学生アスリートの事例を集積する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部へ所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能なSSIの教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部へ所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. SSI運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 専任教員のSSI主権科目の担当状況を把握する。 3. SSIとの連携を促進してもらえるよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。
	達成指標	1. 運営委員会において、SSI運営委員会規程を実態に沿うよう改定し、改定案を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員のSSI主権科目の担当状況を把握する。 3. SSIとの連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSIに乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. SSIに乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。 3. SSI生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	達成指標	1. SSIに乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。 3. 運営委員会において、SSI生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する機会を設ける。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	達成指標	執行部が関連部局と連携することで、履修証明プログラムへの参画を検討する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【重点目標】

運営委員会において、SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定し、改定案を学部長会議に上程する。

【2018 年度中期・年度目標の大学評価】

SSI 質保証委員会の設置によって、具体的かつ実効的な内部質保証体制の整備が図られており、適切である。

教育課程については、学部主催科目の SSI 科目としての公開に関する各学部に対する依頼や、教員組織における、スポーツ健康学部やスポーツ研究センターとの連携強化に関して具体的に施策が設定されており、適切である。ただし、同様の課題が過年度から継続して挙げられており、進展のあった点、今年度の工夫点を記載するとよい。

SSI の特色でありチャレンジでもある、「各学部における専門教育、SSI 科目、競技への専門的な取り組みの並立を図る」SSI 生の特性に即した教育方法／学習方法の開発が目指されており、具体的な成果が期待される。これについても、進展のあった点、今年度特に工夫する点を記載するとよいと思われる。

また、運営委員会規程を実態に合わせて改定する、とある。実態と整合させること自体は適切であるが、規程と実態との相違点について記載がなく、計画されている改定が改善につながるか否かを見極めるには、その点の補足が必要である。

【大学評価総評】

SSI は、スポーツを科学的・文化的に捉え、最新のスポーツ科学を含む多彩な SSI 科目と、所属学部の主催科目による専門学習の融合を図ることによって、高度なスポーツ文化を担う人材の育成という目標達成に向けて着実に施策が実施されている。特に、「競技と学習の両立」を図る SSI 生の実態に即した、授業支援システムや Web 掲示板の積極的活用、対象を全競技に広げた新科目設置をはじめとするカリキュラム改革、所属学部における SSI 生向けガイダンスの実施、アスリートとして幅広いキャリアプランニングを可能にする独自のキャリア教育を実施していることは、高く評価できる。また、アクティブラーニングの導入等、SSI 生のための教育方法開発、履修・学習支援の取り組み、高大接続を配慮した科目の設置も評価できる。

一方、学習成果のタイムリーな把握のための「学生による授業改善アンケート」の組織的な活用、卒業保留・留年・休退学や成績状況等の修学状況の把握、カリキュラムツリー・マップにおける SSI 科目と学部主催科目とのカリキュラム上の有機的な連携の見せ方、体育分野専任教員、特にスポーツ健康学部やスポーツ研究センターとの協働関係の促進については、引き続き課題への取り組みが期待される。また、有機的で持続可能な SSI と学部の連携への取り組みも継続課題であるが、その際には、先述の SSI 生の修学状況の分析・評価や、SSI と所属学部の兼任で多忙となっている SSI 科目担当教員の負担への考慮も必要となろう。

競技への専門的な取り組み、SSI 科目、所属学部での専門学習を融合させる SSI 独自の人材育成の、学部ごとの成功事例や、詳細な課題分析結果を蓄積することは、SSI の成果を把握し特色を伸ばすための基礎として有益と思われる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。